

第59回 学習図書フェア開催中!

3/15~5/15

[地域のニュース] ▶ 愛知 ▶ 岐阜 ▶ 三重 ▶ 静岡 ▶ 長野 ▶ 福井 ▶ 滋賀 ▶ 石川 ▶ 富山

ドラゴンズ、グランパス情報はこちらで
▶ 中日スポーツ

ホーム	社会	政治	経済	国際	スポーツ	特集・連載	社説・コラム						
天気	ウーマン	環境	住まい	就職・転職	グルメ	進学・教育	クルマ	旅行	囲碁・将棋	暮らし	医療	科学	イベント

トップ ▶ 静岡 ▶ 3月27日の記事一覧 ▶ 記事

【静岡】

被災地に届かない アレルギー対応食品 避難所配給へ整備必要

2011年3月27日

支援団体「子どもに注意を」

東日本大震災の避難所に食物アレルギー患者に対応する食品を届けられず、支援団体が苦慮している。対応していない乾パンやミルクを摂取すると、湿疹やぜんそくが出て、最悪死に至る恐れもあるが、ほとんどの自治体は対応食品を支援物資として受け入れていない。東海地震に向け、浜松市の支援団体は行政や市民にアレルギーに対応した防災体制を築くよう求めている。(報道部・原田遼)

「必要な人に全然届いていない」。NPO法人「アレルギー支援ネットワーク」(名古屋市の栗木成治理事は焦りを隠せない。

同団体は東日本大震災の発生直後、被災した自治体がアレルギー対応食品の支援物資を受け入れていなかったため、関係団体や企業に働き掛け、宮城、岩手、福島県の3県に集積所を設置。卵や小麦を使っていないアルファ化米や粉ミルクなど対応食品の受け入れと配達の拠点とした。

栗木理事らは地元のボランティアら約20人と車やバイクで避難所に対応食品を配る一方、集積所に直接受け取りに来る人に提供を続ける。

だが被災地は広大で民間団体に配達するには限界がある。栗木理事によると、何らかの食物アレルギーがある人は全国平均で2~3%、都市部で5%。約24万人の今回の避難者のうち5000~1万数千人がアレルギー患者という計算になる。「アレルギー対応の食品を配っていることも、避難住民に知られていない」と頭を悩ます。

浜松アレルギーの会(旧浜松アトピーの会)の沢柳京子代表は阪神大震災や新潟中越地震での活動から「アレルギーを持つ人への物資配給の仕組みを行政が作らないといけない」と、再三指摘してきた。東日本大震災を受け、東海地震の防災体制により危機感を強めている。

懸念するのは、子どもが両親と離れて避難生活を送るケース。食品衛生法で特にアレルギーを引き起こしやすいとして加工品に表示を義務付けている原材料は小麦、乳、卵など7品目。同じく表示を推奨している原材料は鶏肉、バナナなど18品目もある。

アレルギーがある食品を自分で分からない子どももいる。同会は5年ほど前に「緊急時(災害時)お願いカード」を作成し、市役所や保健所を通じて配っている。親が子どもに摂取させてはいけない食品をカードに書き込み、携帯させることで、緊急時に周囲に注意喚起できる。

沢柳代表は行政の対策が進まない現状から「避難所で市民が子ども一人一人にアレルギーがないかどうかを問い掛けることが必要」と呼び掛ける。



アレルギー症状などが書き込める緊急時のお願いカード＝浜松市役所で

▶ 新聞購読のご案内

静岡の「中日新聞」は
東海本社(浜松市)で編集・発行しています

▶ 東海本社イベント情報

トピックス

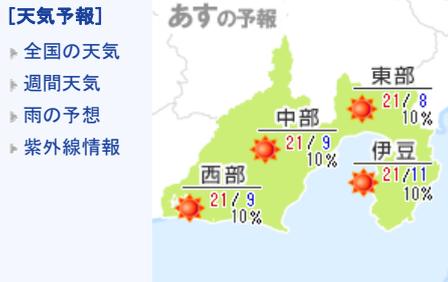
統一地方選2011
静岡 | 中部9県

▶ 地震特集 静岡

▶ アクセスランキング(直近1時間)

▼ 地方版記事

- 1【静岡】県が中電に太陽光発電所建設を…
- 2【富山】笑顔チューリップ級 砺波 観…
- 3【愛知】浜岡原発停止に署名5万人余 …
- 4【愛知】大物の応援弁士、続々 衆院愛…
- 5【三重】熊野で山火事 3ヘクターを…



▶ 地域の取材網



東海本社メニュー

- ▶ まちかど情報
- ▶ 静岡釣り情報
- ▶ 静岡けいざい
- ▶ インタビュー
- ▶ わが店の一押し
- ▶ 教育のページ
- ▶ 学校がつかなく仲間たち
- ▶ 高校・大学周年特集
- ▶ 浜松海の星高校50周年
- ▶ 地域特集
- ▶ 野菜ソムリエの食彩記
- ▶ お茶漫歩
- ▶ 女のティールーム
- ▶ 職業別童話帳
- ▶ 精神科のはなし
- ▶ 静岡の!? 記者が走る
- ▶ ウィークリー川勝行事
- ▶ 週間地震情報

- ▶ 中日懇話会
- ▶ 中日レディースサロン

この記事を印刷する